

施策評価（令和4年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和4年8月29日

1 施策のねらい（施策の目的）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人とを結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	施策の方向性(2)		備考
							R2 (H32)	R3 (H33)	
芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合(%)	目標				28.0	29.0	30.0	31.0	
	実績	26.6	23.7	24.3	18.6	15.4	15.8		
	達成率			86.8%	64.1%	51.3%	51.0%		
出典:県生涯学習課調べ		指標の判定			d	e	e	d	
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる4施設（美術館・近代美術館・博物館・農業科学館）では、コロナ禍にあっても小・中学生が安全に安心して体験活動を行えるように、基本的な感染対策の徹底や、接触せずに行える活動の工夫などを行ってきた。実施できる活動を制限したことや、繁忙期にあたる春季や夏季に感染警戒レベルの引き上げが重なった影響などがあり目標値を達成することはできなかったが、コロナ禍における学校のニーズへの対応に努めたことで、前年度実績からはプラスに転じている。 								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値（前年度より改善） 「e」：現状値 $>$ 実績値（前年度より悪化）

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

								施策の方向性(1)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
生涯学習支援システムにおける生涯学習講座の登録件数(件)	目標			2,100	2,300	2,500	2,800		
	実績	1,569	1,570	2,351	2,785	1,809	2,541		
出典:県生涯学習課調べ	達成率			112.0%	121.1%	72.4%	90.8%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度も新型コロナウイルス感染症により多くの生涯学習講座が中止となるなど、システムに登録する行事が減少したため目標値の達成には至らなかったが、社会教育施設や各種団体において、オンラインへの切り替えが進んだことや代替の行事が行われるようになってきたことから、前年度実績よりも増加したと考えられる。 	
		東北	—	—	—	—	—		

								施策の方向性(1)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
県立図書館司書による県立学校図書館への訪問支援等の実施件数(校)	目標			20	25	30	30	H28実績値11	
	実績	10	10	20	25	6	7		
出典:県生涯学習課調べ	達成率			100.0%	100.0%	20.0%	23.3%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度に引き続き、例年行っていた学校への計画訪問を見合わせ、訪問の要請があった学校図書館に限定して、訪問による個別相談や出前授業などを行った。 	
		東北	—	—	—	—	—		

								施策の方向性(2)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
国・県指定等文化財の件数(件)	目標			767	770	773	776		
	実績	758	764	771	770	785	787		
出典:県文化財保護室調べ	達成率			100.5%	100.0%	101.6%	101.4%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 国・県指定等文化財については、県指定として新たに有形文化財2件を指定した。 国登録有形文化財(建造物)については、市町村が推薦した候補物件を、文化庁調査官来県時に下見してもらう等、国や市町村との連携を密にしながら取り組んでおり、登録件数は増加している。 	
		東北	—	—	—	—	—		

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進【生涯学習課、総合政策課】

指標	成果①②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育施設や各種団体において、オンラインへの切り替えや感染対策を徹底するなど工夫して行事を行うケースが増えてきたことから、生涯学習支援システムの登録件数は回復に転じた。また、「あきた県庁出前講座」の実績や各社会教育施設の利用状況も、令和2年度実績から回復に転じた。 ・ 障害者への学習機会の提供や支援体制の充実を図るため、市町村におけるモデル事業や「あきたスマートカレッジ」での講座を実施し、成果を広く周知することができた。 ・ 読み聞かせボランティア養成講座を県北、中央、県南の3地区で実施し、全県域で学校や地域において読書活動を推進する人材の育成を行った。高校生の参加が全体の半数以上を占め、幅広い世代が学び合う機会となった。 ・ 県立図書館司書が要請に応じて学校図書館を訪問し、個別の相談に乗ることで、各校の実情に合った読書環境の向上を図った。 ・ 子どもたちの読書環境の充実を図るため、「読んだッチ・リレー文庫」事業を実施し、64人の県民から絵本等1,151冊の寄贈を受け、保育所や放課後児童クラブ等16か所に提供した(平成23～令和3年度の11年間の累計は、寄贈22,848冊、提供先894か所)。 ・ 読書に親しむ気運を醸成するため、「県民読書の日」(11月1日)制定記念「第8回ふるさと秋田文学賞」の作品を募集し、応募作127編の中から受賞作4編を取めた作品集を刊行(300部)の上、県内の図書館で閲覧や貸出ができるようにしたほか、過去の「ふるさと秋田文学賞」の入賞作品を朗読音楽劇により映像化し、動画配信を行った(令和3年度末時点で1,190回視聴)。 	
<p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の生涯学習講座は、同一会場に講師と参加者が集まって行うのが通例であったが、オンラインと対面、双方の利点を生かし、新しい社会や暮らしの形に合った活動の在り方が模索されてきている。 ・ 県北地区読み聞かせボランティア養成講座では、感染の拡大状況により当初の日程を変更した。県南地区では、園児への読み聞かせを中止するなど、予定していた講座メニューを一部変更して行わざるを得なかった。 ・ 県立図書館が例年行っている学校図書館への計画訪問を見合わせ、要請訪問のみに限定したため、訪問校以外の状況等が把握しづらかった。 	

(2) 良質な芸術・文化体験機会の充実と文化遺産の保存・活用【生涯学習課、文化財保護室】

指標	代表①、成果③
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍にあって校外学習の自粛や活動制限の影響が続いているが、各施設では感染対策を講じつつ実施できる活動プログラムの開発やオンラインの活用等により対応に努めており、セカンドスクールの利用の実績は回復に転じている。 ・ 博物館、美術館等の利用人数は、4施設(美術館・近代美術館・博物館・農業科学館)の合計で236,480人<+66,884人>となり、前年度実績から大幅に改善した。感染症対策を徹底したことで、多くの県民に安全・安心して美術品を鑑賞いただく機会を提供できた。 ・ 「秋田県青少年劇場」は3公演<±0公演>(5校参加<+1校>)を行ったほか、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」を活用し、巡回公演事業を8公演<±0公演>(10校参加<△3校>)、芸術家の派遣事業を33公演<+17公演>(25校参加<+12校>)行い、児童生徒に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供できた。 ・ 本県における文化財の保存・活用の基本的な方向性を示すために、令和2年度末に秋田県文化財保存活用大綱を策定し、保存と活用が相乗効果を生み出しながら文化財を継承していく姿を県民に示した。 ・ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」については、県民向けフォーラム等を通じて気運醸成を図り、イコモスからの照会等について、文化庁の指導の下、4道県及び関係市町と協議して進めた結果、令和3年7月の世界遺産委員会で世界文化遺産に登録された。 ・ 国の文化審議会にてユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定された、西馬音内や毛馬内の盆踊りを含む「風流踊」については、令和3年3月に政府から再提案され、4年11月頃のユネスコ政府間委員会で審査される見込みである。 	
<p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校におけるセカンドスクールの利用や巡回公演は未だ回復の途上にあるが、一般利用は感染症対策が功を奏し、博物館や美術館の利用実績は増加に転じている。 ・ 縄文遺跡群の価値や魅力を伝えるとともに普及・啓発を図るため、秋田フォーラムを毎年開催していたが、感染症対策のため令和2年度に引き続き、YouTube「秋田縄文チャンネル」上に、収録映像による動画公開で対応した。 	

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。					
満足度	調査年度	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	16.1%	14.7%	12.8%	14.2%	+1.4
	十分 (5点)	1.8%	2.2%	1.5%	2.0%	+0.5
	おおむね十分 (4点)	14.3%	12.5%	11.3%	12.2%	+0.9
	ふつう (3点)	49.1%	47.5%	48.0%	47.8%	△0.2
	否定的意見	14.2%	16.4%	18.3%	18.2%	△0.1
	やや不十分 (2点)	10.1%	12.0%	13.1%	12.7%	△0.4
	不十分 (1点)	4.1%	4.4%	5.2%	5.5%	+0.3
	わからない・無回答	20.7%	21.6%	20.9%	19.9%	△1.0
平均点	2.99	2.95	2.88	2.91	+0.03	

調査結果の認識、取組に関する意見等

- 5段階評価の満足度の平均点は「2.91」で、「ふつう」の3より0.09低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は47.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.2%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は62.0%であった。
- 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。
 - ・ 中学以降は勉学に力を入れる代わりに文化に触れる機会が減ったが、小学校までは多く文化に触れられていた。小さいうちから文化に触れられる活動が全県に広まると良いと思う。(女性/10歳代/仙北地域)
 - ・ コロナ感染予防から遠くに行けないため、市町村単位で芸術文化に携われるものがあれば良い。県北には美術館もない。(女性/50歳代/北秋田地域)
 - ・ ミルハスの活用と、秋田市以外でも多様な芸術文化に触れる機会が増えることを期待しています。(男性/40歳代/仙北地域)

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等 により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オンラインの導入や感染症対策の徹底により、生涯学習講座や事業の実績は回復傾向にあるが、オンラインを苦手とする高齢者や活動に支援が必要な障害者などのニーズに対応できていないケースも見受けられる。 ○ 県立図書館が例年行っている学校図書館への計画訪問を見合わせ、要請訪問のみに限定したため、訪問校以外の状況等が把握しづらかった。 ○ 「読んだッチ・リレー文庫」により子どもたちの読書環境の充実を図るとともに、「ふるさと秋田文学賞」の作品募集等を通じて読書に親しむ気運の醸成を図っているが、スマートフォンの普及等の環境の変化もあり、成果に結び付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や障害者なども気軽に生涯学習に取り組めるよう、ワークショップや体験型講座など対面ならではの活動と、リモート講演会などオンラインの利点を生かしたものを併用して、利用者のニーズに合った学習機会の提供に取り組んでいく。 ○ 学校図書館について研修等の機会を捉えて情報収集し、県立図書館の図書セット貸出しによる資料整備や、環境整備等のための情報提供を行う。 ○ 生涯にわたって読書に親しむ環境づくりを更に進めるとともに、若者を中心とした県民の読書意欲を喚起するため、SNS等を活用して読書に関する情報発信を強化していく。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍の影響やデジタル化の進展により、学校や県民が施設に求める利用ニーズは多様化している。 ● コロナ感染予防から遠くに行けないため、市町村単位で芸術文化に携われるものがあれば良い。県北には美術館もない。(県民意識調査より) ○ 世界文化遺産に登録された縄文遺跡群等の保存・活用に当たっては、地域における取組が重要であるが、実際に参加する住民が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設内におけるインターネット環境の構築や機器の整備など、ハード面の整備は進みつつある。今後は、利用者のニーズに対応できるコンテンツの整備など、ソフト面を充実させていく。 ● 美術館・博物館では、これまでも来館が難しい地域に出向いての移動展示等を行っているが、今後も市町村と協力しながら適宜開催に努めていく。また、所蔵作品をWebサイト上の「デジタルアーカイブ」で紹介しており、引き続きデジタルコンテンツの活用による遠隔地の利用者サービスの充実にも取り組んでいく。 ○ 大綱に基づき、地域住民の愛着と誇りの醸成やガイドの育成、副読本の作成・配布による学校教育への働きかけ等、登録後の保存と活用を見据えた受入態勢の強化についても進めていく。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「D」をもって妥当とする。
